西鶴本複製 23

繪入好色一代男

古典文庫

西鶴本複製 23

繪入好色一代男

古典文庫

古典文庫第二九〇冊

昭和四十六年八月二十日印刷発行　　非売品

解説者　前田金五郎

編者兼発行者　吉田幸一
東京都文京区本郷一ノ一二ノ七

印刷者　甲田印刷株式会社

男色一代好

発行所　114　東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二
古典文庫
電話（九一〇）二七一七
振替口座東京一四五九七番

繪入

好色一代男

一

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertc

好色一代男

巻一目録

七歳
八歳
九歳
十歳
十一歳
十二歳
十三歳

けした所が恋のはじまり

桜もちるに歎き、月はかぎりありて入佐山。爰に但馬の国かねほる里の辺に浮世の事を外になして、色道ふたつに寝ても覚めても夢介と替名よばれて、名古屋三左・加賀の八などと、七つ紋のひしにくみして、身は酒にひたし、一条通夜更けて戻り橋、或時は若衆出立、姿をかへて墨染の長袖、又はたて髪かつら、化物が通るとは誠にこれぞかし。それも彦七が顔して、願くは噛ころされてもと通へば、なほ見捨難くて、其比名高き中にも、かづらき・かをる・三夕、思ひ思ひに身請して、嵯峨に引込み、或は東山の片陰、又は藤の森、ひそかにすみなして

なりて。契かさなりて、此うちの腹よりむまれて世之介と名によぶ。あらはに書しるす迄もなし、しる人ハしる。ふたりの寵愛てうちうちに、髪振の山も定り。四つの年の霜月ハ髪置、袴着の春も過て、疱瘡の神いのれバ跡なく、六の年へて、明れバ七歳の夏の夜の寝覚の枕をのけ、かけがねの響、あくびの音のミ。おつぎの間に宿直せし女さし心得て、手燭ともして遥なる廊下を轟かし、丑寅の方の家陰に、南天の下葉しげりて、敷松葉に御しともれ行て、お手水のぬれ縁ひしぎ竹の、あらけなきにかゝる釘のかしらゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男は遊びて、假寝を楽繪のたうしを筆の初めに、
文車を、みるーしう、枕草の間へ、我よりさきに、
御前なるかく、関をえらくこそ、あるかめくし、
対面、おくわ君をいりぞ、比翼の鳥のかたち、
と、ながめ、御前、花にくるて、指みとわつ、連理を
見、我みとすると、よ、ぬ、みは、て、は、我つみ
鳥、ぬ、ぬ、ぬ、を、人を、ぬ、ぬ、節を、ぬ、ぬ、
しもびてうし、ぬ、みまり、身みを、ぬ、ぬ、神を
焼、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、
ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、
鳥、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、

世うし天へを滅亡人はの和一を水一要の国
兩方のてはうの時のあ絶ふと者き話まで悲しき
あるうと萬水者らを五十四歳まで子孫もし如
三千七百四十二人お人者もてはうしい七百二十五人
手日記水まで井筒水まわてうるくこまわ京
骨形をかえほてそを命はうの物

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertc

文章

文月七日の日、一と夕にして、修験の懼しいかなる、うんぜん
地さし、北礙石、洗ひ流し、そみ口わるる
潮、こも、大川となり、ぬかは金竜寺の入相よりか祈
八方の宮、西の海、そたゝひ出る色世をみもそや
小雪の入、色き年なるもとて、行う山伏の姿の
元とみ、さし、蛮ゆること、書し、宗鑑法師の
一庵の跡とて、住ける風人、滝本流を
くうしくし、程の師匠の、やくさせて、
きるみ、ひ中紙をもてぐうつ、文章をこの
まんとー物を、播南坊、こうそ、ハ、い、

書面にしたがひ今文例にしたがひ人の妻たるものは
中まゝ紛失大形用つきゆくに成合点なる色し
二三日酒水嫉妬の至寢とかくまこと対ごとの糸
まきとりとをもつて酒とわましごとこし
ゆるしうけきゆとはなるの至きり形事と脱
はなしりぬハ定ておもふ水のもとゝ生い事の
ゆるるの出るの形ん例まゝ紛失色しと形く
とゆ程水師道をうるまるの毛長ゆゑと
書ける事なるの色のはをゆくとゆ色もの程は
紙をなく書とつぎをゆ変るゆるわを
ゆる色し光見ゆくやるの色と大水の事なるハ

下女面目なくかへり言葉もなく此山ゆくと
ハ捨て逐へ神式しうえて社文ひ祭うり
ものの為ひとへと来ると水何心をもつて
まつまと娘文水覚もなく赤面して
此方ハ知らずつハしをると言葉ばかりなれど
お付て侍母親かの玉章を見ると陽を見るく
かの此上家の業とハ言て是どもなくさ、ハ
なりと罪なる事水紫りまてその事
こまの水云まけそなれこ一くよりなる事水
人の口とてばかりさ世沙汰一体ハ世人の嫌水
むの明おとの程ハ世ハ何とをもく今まてハ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertc